

App Bridge Kicker
Windows Agent
インストールガイド

Ver. 1.19.0

目次

1. はじめに	1
1.1 本書の役割	1
1.2 前提ドキュメント	1
1.3 モジュールの前提条件	1
2. 監視対象ノードの登録	2
3. Agent のインストール	5
3.1 Agent の前提条件、対象 OS	5
3.2 監視対象サーバへのログイン	5
3.3 セットアップファイルのダウンロードと解凍	5
3.4 インストール	6
3.5 Smart Controller での設定	7
3.6 サービス起動	9
4. Agent のアンインストール	10
5. Windows Agent のアップグレード	11
6. ノードの再設定	11
7. Windows Agent のサービス制御	12
7.1 サービス名	12
7.2 Service Control によるサービス制御	12
7.3 OS シャットダウン、再起動に関する注意	13
8. Agent 設定	14
8.1 Agent 環境設定	14
8.2 プロキシの設定	15
8.3 サーバ ID の確認	15
8.4 スケーリングタグの確認	15
9. アカウント設定	16
9.1 プロセスアカウントの変更	16
9.2 アカウントの準備	16
9.2.1 ローカルアカウントの作成	16
9.2.2 ユーザ権限の設定	17
9.2.3 ログインと環境設定	18
9.3 プロセスアカウントの設定	19
9.4 適用されるプロセスアカウント	20
10. Agent の監視	21
11. ローカルストレージ	22
11.1 App Bridge システムデータフォルダ	22
11.1.1 保存される内容	22
11.1.2 標準パス	22

11.1.3 フォルダの移動.....	22
11.2 App Bridge Kicker データフォルダ.....	23
11.2.1 保存される内容.....	23
11.2.2 標準パス.....	23
11.2.3 フォルダの移動.....	23
11.2.4 モジュールキャッシュの縮小とクリア.....	24

1. はじめに

1.1 本書の役割

本書は、App Bridge Kicker Windows Agent のインストール方法について説明するものです。

1.2 前提ドキュメント

本書は、以下のドキュメントを前提に記載されています。本書をご覧いただく前にご一読下さい。

- App Bridge ファーストステップガイド
- App Bridge 管理者ガイド
- App Bridge Kicker 概説

1.3 モジュールの前提条件

App Bridge Kicker が利用者向けに提供するモジュールの対象 OS、前提条件は、以下のドキュメントに記載されています。

- Windows Agent サポートリスト

2. 監視対象ノードの登録

App Bridge Monitor と App Bridge Kicker は同じノード情報を共有します。このため既に App Bridge Monitor のノードとして登録されているサーバに App Bridge Kicker をインストールする場合、本章の操作は不要です。

Windows Agent による Agent 監視サービスを実施するためには、監視対象サーバをノードとして登録します。本操作はユーザロール EnterpriseAdmin/NodeAdmin で実施できます。

新しいノードを登録するには、App Bridge サイトにログインいただき、＜メインメニュー/ノード管理/ノード一覧＞の[ノード登録]ボタンをクリックします。

Menu > ノード一覧

ノードCD (前方一致) ☐ 解約済を表示

ノードCD	ノード名	種類	スケーリング制御
WS1	Windowsサーバ1号機	Windows (Amazon EC2)	☐

登録するノードの情報を入力します。入力が完了したら、[確認]ボタンをクリックします。

Menu > ノード一覧 > ノード登録

確認

キャンセル

ノード基本情報

ノードCD	
ノード名	
種類	--- v
スケーリング制御	☐

ノード基本情報は、利用者サーバの基本情報を登録するものです

- 本情報の登録により、App Bridge Monitor Agent、App Bridge Kicker Agentが利用可能となります
- App Bridge Monitor Agentをインストールしない限り、本情報を登録しても、Agent監視の課金は発生しません
- App Bridge Kicker Agentをインストールしない限り、本情報を登録しても、オーナノード課金は発生しません

ノード契約情報

統計保有日数(日)	--- v
応答監視エンドポイント上限数(件)	選択しない v
API監視	☐ 有効

ノード契約情報は、App Bridge Monitorの利用者サーバ監視設定であり、課金に影響するものです

- 統計保有日数は、Agent監視、応答監視の統計情報保有する日数であり、各監視の単価に影響します
- 応答監視は、申請ベースの課金であり、エンドポイント上限数を登録した時点から課金が発生します
- API監視は、申請ベースの課金であり、API監視を有効とした時点から課金が発生します

項目名称	設定内容	備考
ノード CD	監視対象ノードを一意に識別するためのノード CD を入力します。以降の処理には、このノード CD が必要です	(※1)
ノード名	任意のノード名を入力します	
種類	ノードの種類をプルダウンメニューから選択します	(※2)
スケーリング制御	AWS Auto Scaling など、サーバインスタンスを動的に増減させる場合チェックします	(※3)
統計保有日数（日）	統計情報を保存する日数を選択します	(※4)
応答監視エンドポイント上限数（件）	応答監視（Ping 監視、HTTP 監視、TCP ポート監視）のエンドポイント数を選択します。エンドポイント数は、監視したい Ping FQDN、HTTP URL、HTTPS URL、TCP FQDN とポート番号の合計です	(※4) (※5)
API 監視	API を利用したインスタンスのステータス監視を実施する場合、チェックします	(※4) (※5)

※1：先頭英字で半角英字、数字、アンダースコア、ハイフンで構成された 32 文字で指定します

※2：次ページ「種類の一覧」を参照下さい

※3：スケーリング制御の解説は「App Bridge ファーストステップガイド」を参照下さい

※4：App Bridge Kicker の動作には影響しません

※5：本画面で設定した時点から課金が発生します。App Bridge Monitor を使用しない場合、本項目は設定しないで下さい

種類の一覧は以下のとおりです。グレイアウトしている種類は本マニュアルの対象外です。

#	種類	内容	スケーリング制御
1	Windows (On-Premises)	Windows サーバ	選択可
2	Windows (Microsoft Azure Cloud Services)	Azure Cloud Services で稼働する Windows サーバ	必須
3	Windows (Microsoft Azure Virtual Machines)	Azure Virtual Machines で稼働する Windows サーバ	選択可
4	Windows (Amazon EC2)	Amazon Web Services で稼働する Windows サーバ	選択可
5	Linux (On-Premises)	Linux サーバ	選択可
6	Linux (Microsoft Azure Virtual Machines)	Azure Virtual Machines で稼働する Linux サーバ	選択可
7	Linux (Amazon EC2)	Amazon Web Services で稼働する Linux サーバ	選択可
8	Microsoft Azure SQL Databases	Azure SQL Databases サーバ	選択不可
9	Network Device	ネットワーク機器（ルータ、ファイアウォールなど）	選択不可

表示されたノード登録確認画面で入力した内容を確認し、「内容を確認しました」のチェックボックスにチェックを入れて、[決定]ボタンをクリックします。

Menu > ノード一覧 > ノード登録確認

☒ 内容を確認しました
ノードを登録する場合、「内容を確認しました」にチェックを付けて決定ボタンを押してください。

ノードID	WS2
ノード名	Windowsサーバ2号機
種類	Windows(On-Premises)
スケーリング制御	☐
統計保有日数(日)	40
応答監視エンドポイント上限数(件)	選択しない
API監視	☐ 有効

これでノード登録は完了です。ご登録頂いたメールアドレスに「App Bridge 利用手続き完了通知（ノード登録完了）」が電子メールで送信されます。

3. Agent のインストール

3.1 Agent の前提条件、対象 OS

Windows Agent がサポートする環境、前提条件については、「Windows Agent サポートリスト」を参照下さい。

3.2 監視対象サーバへのログイン

監視対象サーバに管理者権限を持つアカウントでログインします。

3.3 セットアップファイルのダウンロードと解凍

(1) App Bridge Kicker Windows Agent のダウンロード

対象のセットアップファイルを以下のサイトからダウンロードし、解凍します。

http://www.app-bridge.com/Setup_Kicker.html

ダウンロードファイル	含まれるセットアップファイル	備考
SetupLB4Agent_v011900.zip	SetupLB4Agent.msi	

(2) 共通モジュールのダウンロード

対象のセットアップファイルを以下のサイトからダウンロードし、解凍します。

http://www.app-bridge.com/Setup_Tools.html

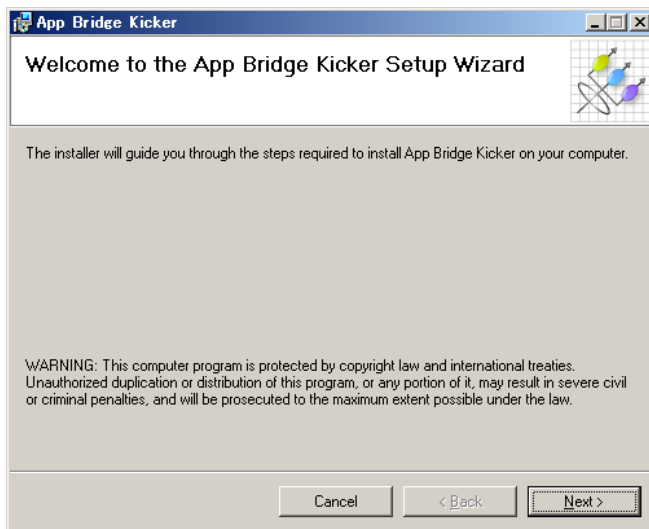
ダウンロードファイル	含まれるセットアップファイル	備考
SetupABMSupport_v011900.zip	SetupABMSupport.msi	※1、※2

※1：同セットアップが既にインストールされているとき、不要です

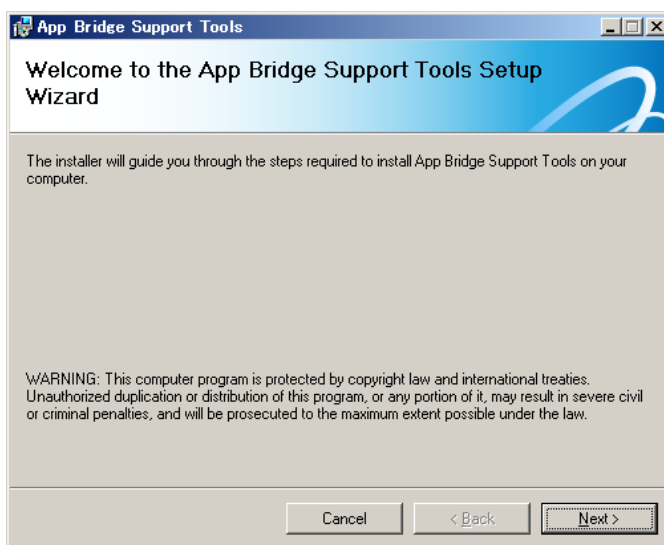
※2：App Bridge Monitor Windows Agent がインストールされているとき、不要です

3.4 インストール

解凍フォルダの SetupLB4Agent.msi を実行します。表示される画面に従い、インストールを実施します。



解凍フォルダの SetupABMSupport.msi を実行します。表示される画面に従い、インストールを実施します。



3.5 Smart Controller での設定

スタートメニューから「App Bridge Kicker」－「Smart Install」を選択し、表示された画面で [Smart Install] ボタンをクリックしてください。App Bridge Monitor をインストールしている環境では、[Smart Install] ボタンが無効となっています。この場合、本節の設定は必要ありません。



Smart Download の入力ウィンドウが起動します。

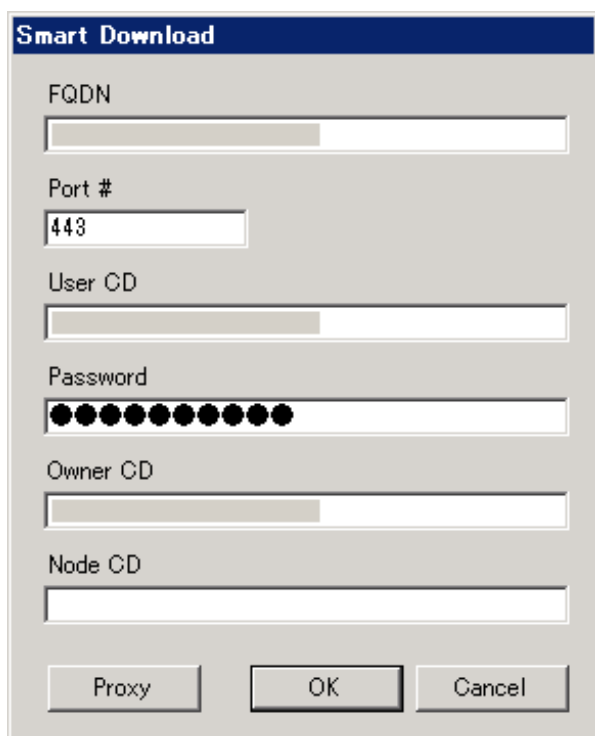
A screenshot of the 'Smart Download' input window. It has a title bar with the text 'Smart Download'. The window contains several input fields: 'FQDN' (empty), 'Port #' (containing '443'), 'User CD' (empty), 'Password' (empty), 'Owner CD' (empty), and 'Node CD' (empty). At the bottom, there are three buttons: 'Proxy', 'OK', and 'Cancel'.

App Bridge センタへの HTTPS 通信をプロキシサーバー経由とする場合、[Proxy] ボタンをクリックし、プロキシ情報を設定して下さい。

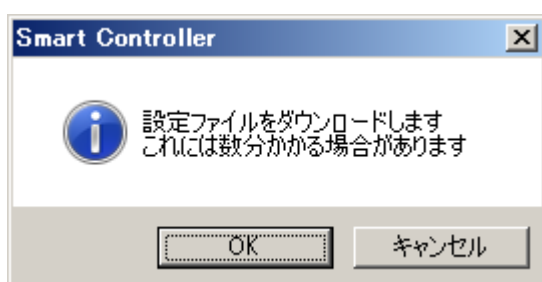
プロキシ設定の詳細は、「App Bridge Windows Agent プロキシ設定ガイド」を参照下さい。

設定項目	設定内容	備考
FQDN	mercury. app-bridge. com	
Port#	443	
User CD	ユーザコード	EnterpriseAdmin、または ServiceAdmin のユーザを指定します
Password	ユーザのパスワード	指定したユーザのパスワードを指定します
Owner CD	対象のオーナーコード	「App Bridge 利用手続き完了通知」に記載されているオーナーコードを指定します
Node CD	対象のノードコード	登録したノードのノードコードを指定します

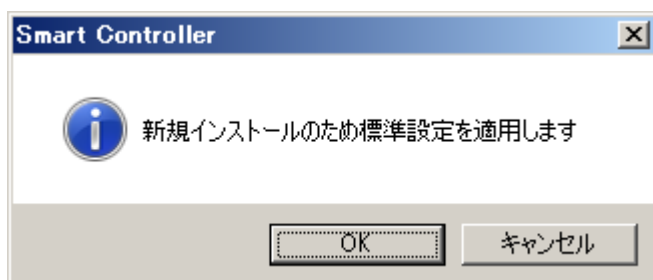
[OK] ボタンをクリックすると、設定情報を取得し、標準監視項目を設定します。この処理には、数十秒～数分を要します。



The 'Smart Download' dialog box contains several input fields: 'FQDN' (empty), 'Port #' (443), 'User CD' (empty), 'Password' (masked with dots), 'Owner CD' (empty), and 'Node CD' (empty). At the bottom are three buttons: 'Proxy', 'OK', and 'Cancel'.



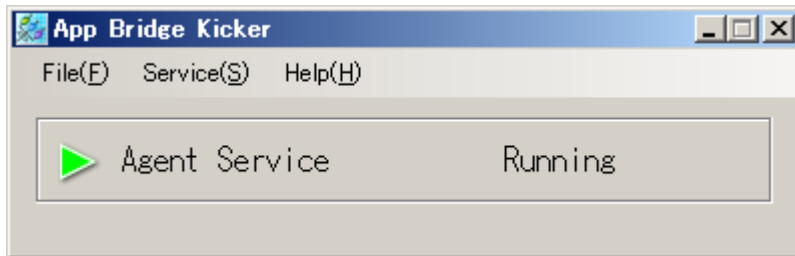
設定情報の入手が成功すると、以下の画面が表示されます。 [OK] ボタンをクリックしてください



これでインストールは終了です。続いてサービス起動を実施します。

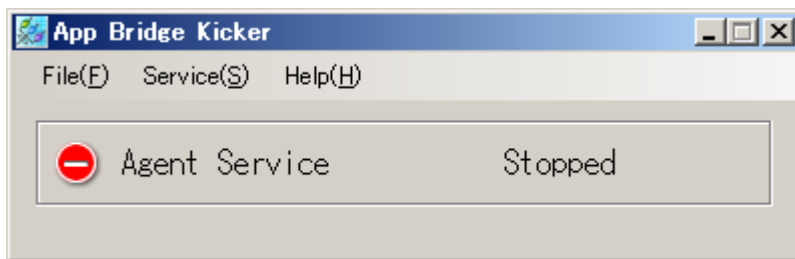
3.6 サービス起動

スタートメニューから「App Bridge Kicker」－「Service Control」を起動し、Service Control のメニューから「Service」－「Start」を選択し、サービスを起動して下さい。

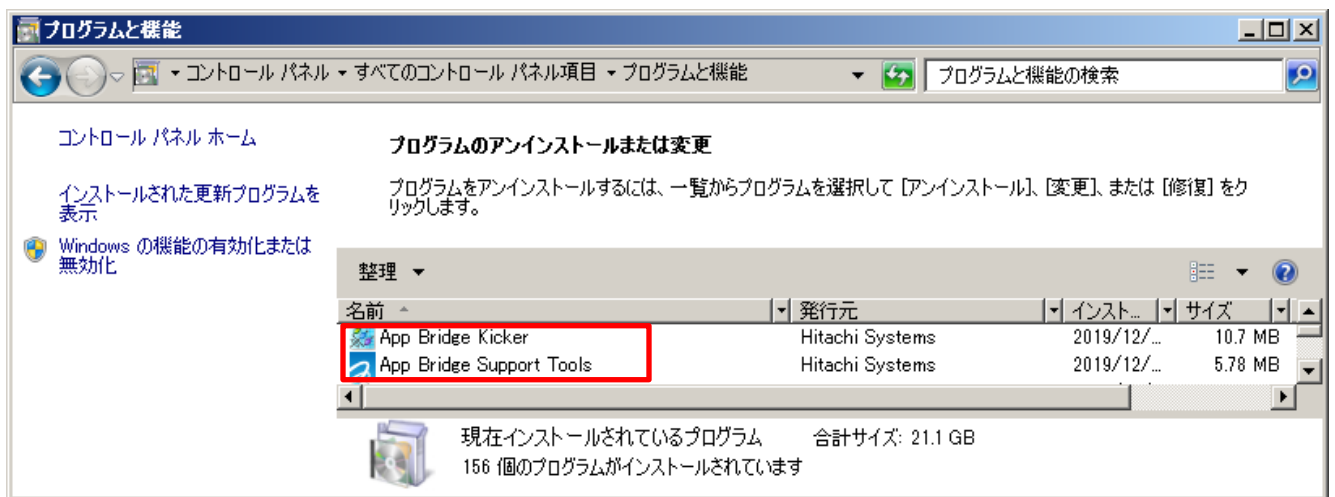


4. Agent のアンインストール

Service Control のメニューから「Service」－「Stop」を実行し、App Bridge Kicker サービスを終了させます。サービス終了後、Service Control は閉じてください。



「コントロールパネル」－「プログラムと機能」で「App Bridge Kicker」「App Bridge Support Tools」を選択し、アンインストールを実施します。



5. Windows Agent のアップグレード

Windows Agent をアップグレードする場合、アンインストールを実行したのち、再度新しいバージョンのインストールを実行してください。設定情報は引き継がれます。

ダウングレード（古いバージョンのインストール）は保証していません。

6. ノードの再設定

インストールしている Agent を異なるノードに変更する、またはノードを変更せずにノード設定をリフレッシュ（※1）する場合、「ノードの再設定」を実施します。

「ノードの再設定」を実施するためには、監視対象サーバに管理者権限を持ったアカウントでログインし、スタートメニューから「App Bridge Kicker」-「Smart Install」を起動します。起動した Smart Controller で「Change Config」をクリックし、表示される画面に従って設定します。



なお、異なるノードに変更した場合、及びノードを変更せずにノード設定をリフレッシュ（※1）した場合、いずれの場合も各種監視設定は維持されます。

※1: App Bridge センタからダウンロードした情報を全て削除します。利用者が設定した内容は保持されます

7. Windows Agent のサービス制御

7.1 サービス名

App Bridge Kicker Windows Agent は、Windows サービスであり、以下の名称でインストールされます。

項目	内容	備考
サービス名	LB4 Agent Service	
表示名	LB4 Agent Service	
説明	App Bridge Kicker Agent Service	
スタートアップ	自動（遅延開始）	

7.2 Service Control によるサービス制御

App Bridge Kicker Windows Agent を開始、終了するには、対象サーバに管理者権限を持ったアカウントでログインし、スタートメニューから「App Bridge Kicker」－「Service Control」を起動します。

App Bridge Kicker Windows Agent を開始、終了するには、Service Control のメニューから「Service」－「Start」または「Stop」を選択して下さい。

7.3 OS シャットダウン、再起動に関する注意

Windows Server は、シャットダウンを要求されると、稼働中のサービスに停止を要求し、サービス停止待ち時間（※1）を経過しても終了しないサービスを強制終了します。

App Bridge Kicker Windows Agent でステップインスタンスが実行されている場合、サービス停止待ち時間内に終了できないケースが多く、サービスが強制終了された場合、ステップインスタンスの結果を保証できません。

このため、Windows Server をシャットダウンする場合、App Bridge Kicker Windows Agent を停止し、その後シャットダウンを実施して下さい。

ステップ定義で「シャットダウン要求」を設定することにより、ステップ正常終了時に OS をシャットダウン（またはリブート）させることが可能です。

この機能では、サービスの停止を確認してから OS にシャットダウンを要求するため、安全に OS をシャットダウンできます。設定の詳細は、「App Bridge Kicker タスクオペレーションガイド」を参照下さい。

※1：サービス停止待ち時間は、OS バージョンによって異なり、5 秒～30 秒の値が設定されています。またこの値はレジストリで変更することが可能であり、環境によって異なる可能性があります

8. Agent 設定

8.1 Agent 環境設定

App Bridge Kicker Windows Agent 環境設定を実施するには、スタートメニューから「App Bridge Kicker」－「Service Control」を起動し、Service Control のメニューから「File」－「Service Config...」を選択して環境設定画面を表示します。表示された環境設定画面で、Agent 環境を変更できます。変更を有効とする場合、App Bridge Kicker Windows Agent を再起動する必要があります。

The image shows a 'Service Config' dialog box with the following fields and options:

- Node Tag:** A text input field.
- Worker Thread Count:** A text input field containing the value '16'.
- Maximum Bandwidth (Mbps):** A section containing two dropdown menus:
 - Upload:** Set to '128'.
 - Download:** Set to '128'.
- Task Abort to Error Eventlog:** An unchecked checkbox.
- Reject Shutdown by Agent:** An unchecked checkbox.
- Buttons:** 'OK' and 'Cancel' buttons at the bottom.

項目		備考
Node Tag	当該サーバのノードタグを設定します。指定されたノードタグは、Web サイト/ノード管理で設定されたノードタグとマージされ、タスクインスタンスの抽出に使用されます。本項目は下位互換のため用意されています。通常はノード管理でタグを設定して下さい	最大数は 16 です
Worker Thread Count	起動するワーカースレッド数を設定します	初期値は CPU コア × 4 です
Maximum Bandwidth/Upload	データをアップロードする際の最大ネットワーク帯域を指定します (※1)	初期値は 128Mbps です
Maximum Bandwidth/Download	データ、またはモジュールをダウンロードする際の最大ネットワーク帯域を指定します (※1)	初期値は 128Mbps です
Task Abort Event Level Error	ステップの異常終了をイベントログにエラーとして記録する場合チェックします。ステップの異常終了は App Bridge センタから通知されます。App Bridge Monitor 以外の監視ツールにステップの異常終了を検知させたい場合、チェックして下さい	初期値はチェックオフです
Reject Shutdown by Agent	ステップ定義のシャットダウン要求を無視する。この項目をチェックしたとき、ステップ定義によるサーバ停止、サーバリブート、サービス停止は実施されない	

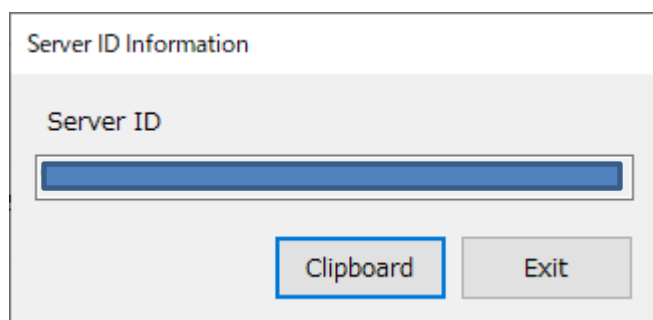
※1：各ワーカースレッドが指定帯域を使用する点に留意下さい

8.2 プロキシの設定

App Bridge センタに対する HTTPS アクセスにプロキシを使用する場合、スタートメニューから「App Bridge Kicker」－「Service Control」を起動し、Service Control のメニューから「File」－「Proxy...」を選択してプロキシ設定画面を表示します。表示されたプロキシ設定画面にプロキシ情報を入力して下さい。プロキシ設定画面の詳細は、「App Bridge Windows Agent プロキシ設定ガイド」を参照下さい。

8.3 サーバ ID の確認

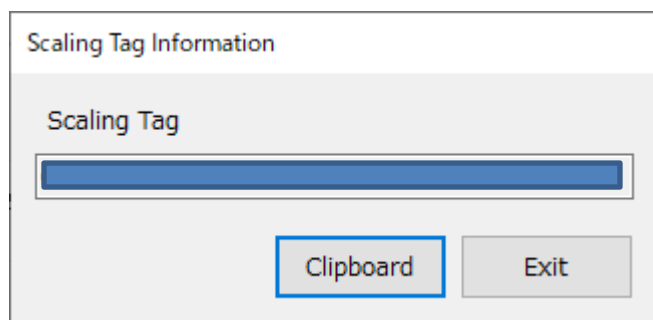
サーバインスタンスのサーバ ID を確認するためには、スタートメニューから「App Bridge Kicker」－「Service Control」を起動し、Service Control のメニューから「Help」－「Server ID Information...」を選択して下さい。



サーバ ID については、「App Bridge Kicker 概説/サーバ ID による実行サーバの確認」を参照下さい。

8.4 スケーリングタグの確認

サーバインスタンスのスケーリングタグを確認するためには、スタートメニューから「App Bridge Kicker」－「Service Control」を起動し、Service Control のメニューから「Help」－「Scaling Tag Information...」を選択して下さい。なお、このメニューは、Scaling 制御されたノードのみで表示されます。



スケーリングタグについては、「App Bridge Kicker 概説/スケーリングタグによるステップインスタンス実行」を参照下さい。

9. アカウント設定

9.1 プロセスアカウントの変更

App Bridge Kicker Windows Agent から起動される実行プロセスのアカウントを変更することができます。これにより、プロセスの実行権限を制御でき、ネットワークリソースのアクセス権限を設定することができます。

9.2 アカウントの準備

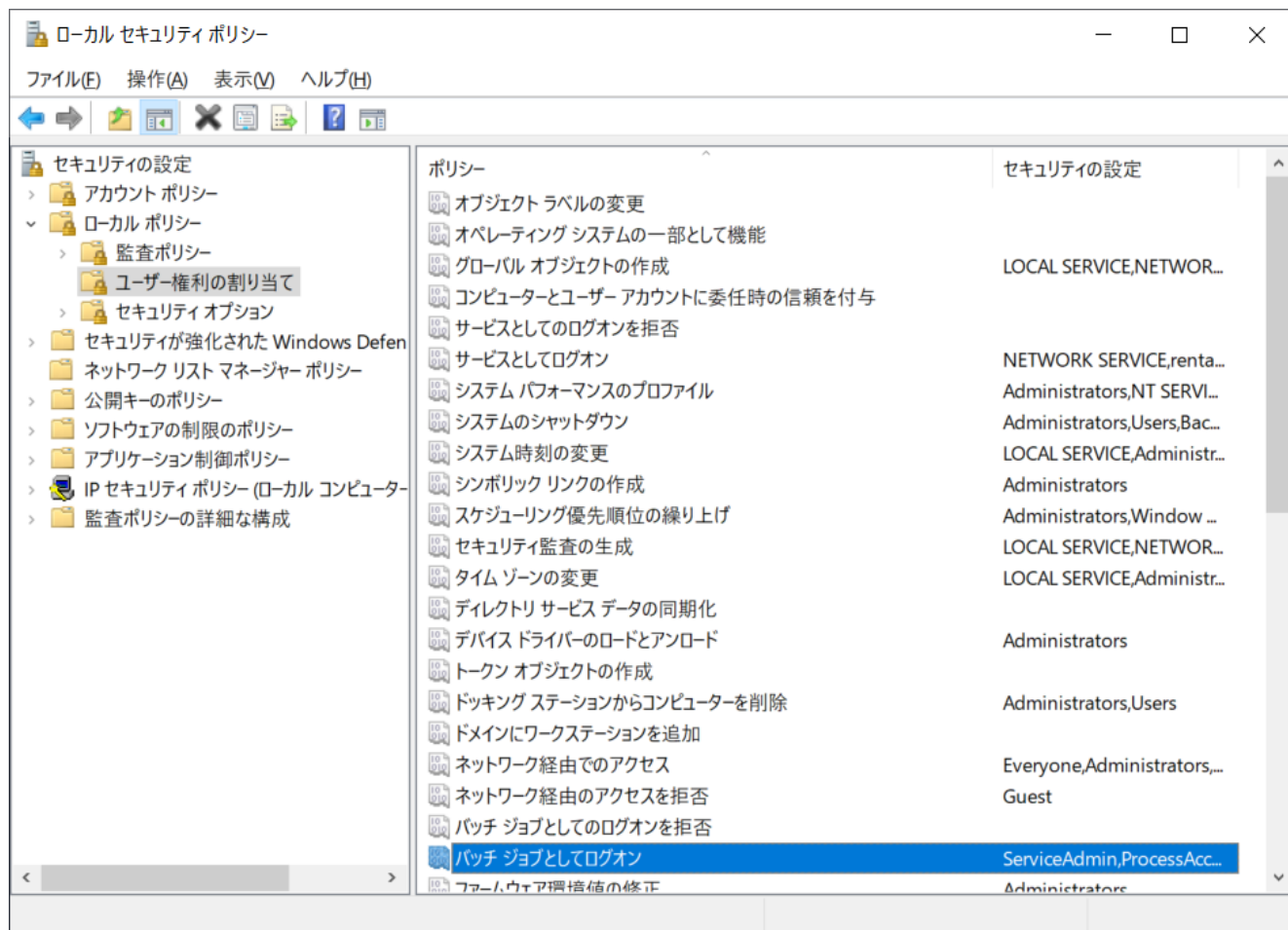
プロセスアカウントには、バッチジョブでログオン権限を持つアカウントが必要です。プロセスアカウントには、専用のローカルアカウントを使用します。

9.2.1 ローカルアカウントの作成

サービスログオンアカウント用に、ローカルアカウントを作成します。ローカルアカウントを作成するには、「コンピューターの管理/ローカルユーザーとグループ/ユーザー」を使用します。

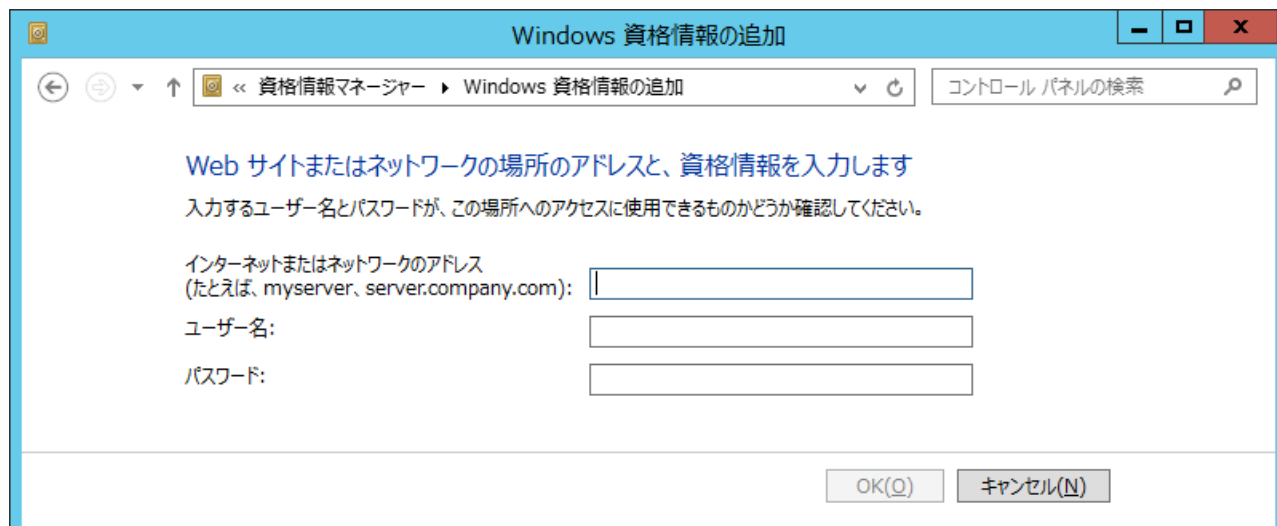
9.2.2 ユーザ権限の設定

ローカルセキュリティポリシーを使用し、作成したアカウントにサービスログオン権限を設定します。「ローカルセキュリティポリシー/ローカルポリシー/ユーザ権利の割り当て」を開き、「バッチジョブとしてログオン」に作成したアカウントを追加して下さい。



9.2.3 ログインと環境設定

作成したアカウントで対象コンピュータにログインします。プロセスアカウントで、ファイル共有などのネットワークリソースにアクセスする場合、「コントロールパネル/資格情報マネージャー/Windows 資格情報」を開き、リソースごとに使用するアカウントを設定して下さい。



The screenshot shows a Windows window titled "Windows 資格情報の追加" (Add Windows Credential). The window has a blue header bar with standard Windows window controls (minimize, maximize, close). Below the header is a navigation bar with a back arrow, a search icon, and a search box containing "コントロール パネルの検索". The main content area has a blue header with the text "Web サイトまたはネットワークの場所のアドレスと、資格情報を入力します" (Enter the address of the website or network location and the credentials). Below this is a sub-header "入力するユーザー名とパスワードが、この場所へのアクセスに使用できるものかどうか確認してください。" (Verify that the username and password you enter can be used to access this location). There are three input fields: "インターネットまたはネットワークのアドレス (たとえば、myserver, server.company.com):", "ユーザー名:", and "パスワード:". At the bottom right are two buttons: "OK(O)" and "キャンセル(N)".

Windows 資格情報の追加

← 資格情報マネージャー Windows 資格情報の追加 検索

コントロール パネルの検索

Web サイトまたはネットワークの場所のアドレスと、資格情報を入力します

入力するユーザー名とパスワードが、この場所へのアクセスに使用できるものかどうか確認してください。

インターネットまたはネットワークのアドレス
(たとえば、myserver, server.company.com):

ユーザー名:

パスワード:

OK(O) キャンセル(N)

9.3 プロセスアカウントの設定

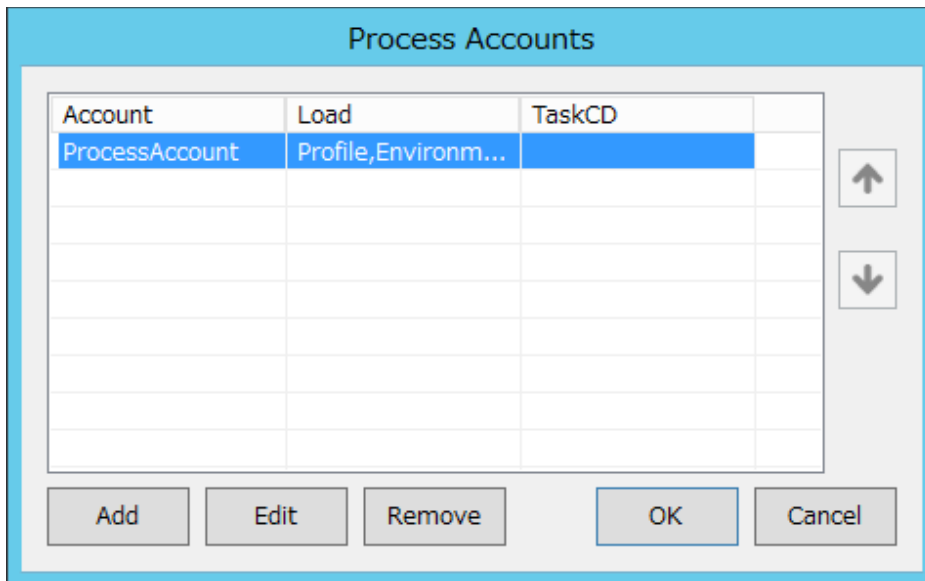
Windows Agent の Service Control を開き、メニューから「Account→Process Accounts」を選択し、表示された画面で、[Add] ボタンをクリックします。

表示された画面で、プロセスアカウント情報を入力し、[OK] ボタンをクリックします。

項目	内容	備考
Account	作成したアカウント名を入力します	
Password	作成したアカウントのパスワードを入力します	
TaskCD (Regular Expression)	このアカウントを使用するタスクコードの正規表現を指定します。空値を指定した場合、全てのタスクコードに該当します	
Load Profile	ユーザプロファイルをロードする場合チェックします。ロードすることで、Windows 資格情報などが有効になります。ユーザプロファイルの取得はサービス起動時に実行されるため、ユーザプロファイルを変更した場合、サービスの再起動が必要です	特に理由がない限り、本項目はチェックしてご利用下さい
Load Environment	ユーザ環境変数をロードする場合チェックします。ユーザ環境変数の取得はサービス起動時に実施されるため、ユーザ環境変数を変更した場合、サービスの再起動が必要です	特に理由がない限り、本項目はチェックしてご利用下さい

9.4 適用されるプロセスアカウント

プロセスアカウントを複数指定した場合、表示順にタスクコード（正規表現）を評価し、最初に該当したプロセスアカウントで実行プロセスを起動します。全てのプロセスアカウントに該当しなかった場合、実行プロセスはサービスログオンアカウントで起動されます。



The image shows a dialog box titled "Process Accounts". It contains a table with three columns: "Account", "Load", and "TaskCD". The first row is highlighted in blue and contains the text "ProcessAccount", "Profile, Environm...", and an empty "TaskCD" field. To the right of the table are two buttons with up and down arrows. At the bottom of the dialog are five buttons: "Add", "Edit", "Remove", "OK", and "Cancel".

Account	Load	TaskCD
ProcessAccount	Profile, Environm...	

Buttons: Add, Edit, Remove, OK, Cancel

10. Agent の監視

App Bridge Kicker Windows Agent の異常を早急に検知するため、利用者サーバで下記項目の監視を推奨します。App Bridge Monitor での監視を推奨しますが、他の監視ツールでも可能です。

(1) イベントログ

App Bridge Kicker Windows Agent はイベントを「イベントログ/アプリケーション」に記録します。ソース「LB4AgentSRV」にレベル Error が記録された場合、通報し、Agent の状態を確認して下さい。

(2) サービス状態

App Bridge Kicker Windows Agent の状態を監視し、実行中以外となった場合、通報し、Agent の状態を確認して下さい。

11. ローカルストレージ

App Bridge Kicker Windows Agent が使用するローカルストレージは以下のとおりです。

11.1 App Bridge システムデータフォルダ

11.1.1 保存される内容

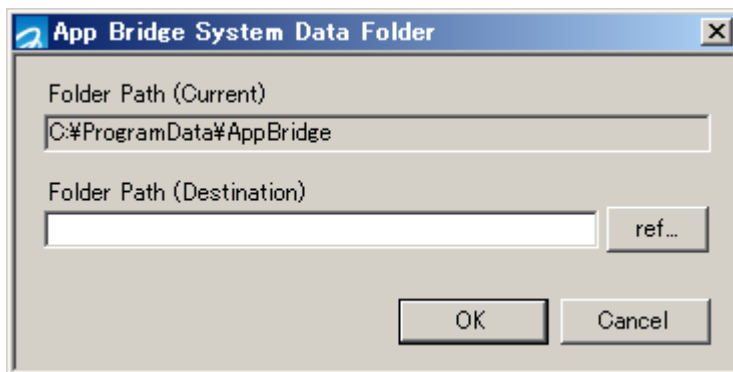
App Bridge システムデータフォルダには、App Bridge の設定ファイル、ログファイルなどが保存されます。通常、使用量の多くはログファイルに占められます。ログファイルの保存期間は 5 日であり、保存期間を経過したログファイルは自動的に削除されます。

11.1.2 標準パス

標準の App Bridge システムデータフォルダパスは、共通 Application Data フォルダ¥AppBridge です。

11.1.3 フォルダの移動

App Bridge システムデータフォルダを移動するには、スタートメニューから「App Bridge Support Tools」－「System Data Folder」を選択し、表示された画面で移動後のフォルダパスを設定して下さい。これにより、新しいフォルダが作成され、データがコピーされます。なお、本処理の実行に先立ち、本ツールを除く、App Bridge 全プログラムを停止する必要があります。



11.2 App Bridge Kicker データフォルダ

11.2.1 保存される内容

App Bridge Kicker データフォルダには、App Bridge Kicker Windows Agent のステップ実行データ、モジュールキャッシュが保存されます。

(1) ステップ実行データ

ステップ実行ごとの一時データが保存されます。ステップ実行データには、ダウンロードデータ、アップロードデータが含まれるため、多くの容量を占める場合があります。ステップ実行データは、App Bridge センタへのステップ実行結果通知が終了してから 240 分以上が経過すると、随時削除されます。

(2) モジュールキャッシュ

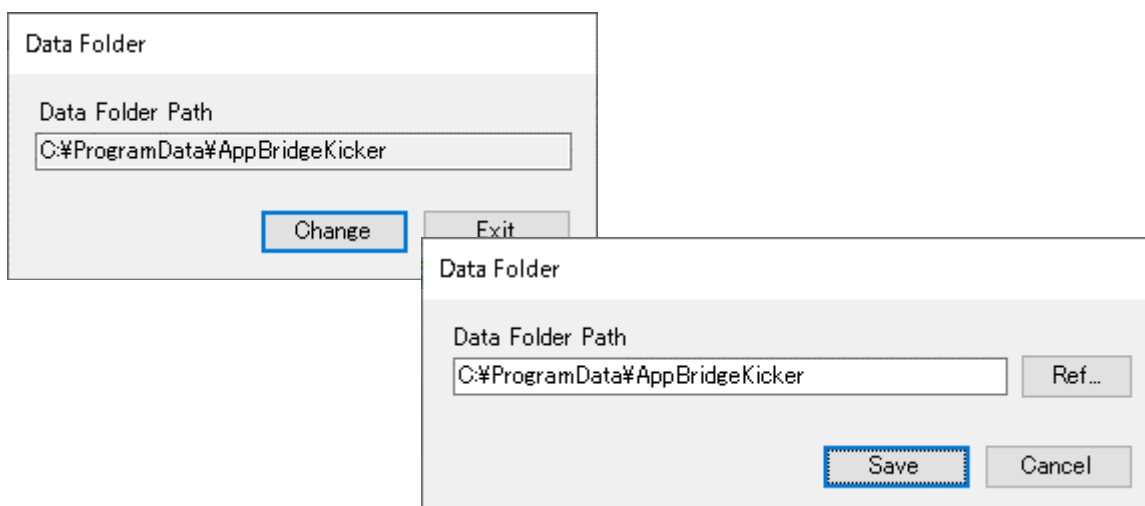
パブリックモジュール、プライベートモジュール実行時に、App Bridge センタからダウンロードしたモジュールデータは、モジュールキャッシュに格納され、再利用されます。モジュールキャッシュのデータは自動削除されません。モジュールキャッシュデータの削除方法は、後述の「モジュールキャッシュの縮小とクリア」を参照下さい。

11.2.2 標準パス

標準の App Bridge Kicker データフォルダパスは、共通 Application Data フォルダ¥AppBridgeKicker です。

11.2.3 フォルダの移動

App Bridge システムデータフォルダを移動するには、スタートメニューから「App Bridge Kicker」－「Service Control」を選択し、Service Control のメニューから「File」－「Data Folder...」を選択してデータフォルダ画面を表示します。表示された画面の[Change]ボタンをクリックし、フォルダ移動画面に移動後のフォルダパスを設定して下さい。これにより、新しいフォルダが作成され、データがコピーされます。なお、本処理の実行に先立ち、App Bridge Kicker Windows Agent を停止する必要があります。



11.2.4 モジュールキャッシュの縮小とクリア

(1) モジュールキャッシュの縮小

モジュールキャッシュの縮小では、モジュールキャッシュに保存されているデータのうち、最も新しいバージョンのみを残し、他のバージョンを削除します。

モジュールキャッシュを縮小するには、スタートメニューから「App Bridge Kicker」－「Service Control」を選択し、Service Control のメニューから「File」－「Module Cache」－「Shrink...」を選択します。なお、本処理の実行に先立ち、App Bridge Kicker Windows Agent を停止する必要があります。

(2) モジュールキャッシュのクリア

モジュールキャッシュのクリアでは、モジュールキャッシュに保存されているデータを全て削除します。

モジュールキャッシュのクリアを実施するには、スタートメニューから「App Bridge Kicker」－「Service Control」を選択し、Service Control のメニューから「File」－「Module Cache」－「Clear...」を選択します。なお、本処理の実行に先立ち、App Bridge Kicker Windows Agent を停止する必要があります。